

ヒメトビウンカ防除により、イネ縞葉枯病の被害を抑えましょう！

令和5年5月中～下旬に、イネ縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカの第一世代幼虫を麦類ほ場から採集し、そのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率と生息密度を調査しました。保毒虫率は、県平均値3.0%と昨年並でした（表1）。また、生息密度は、県平均で146.3頭/10㎡であり、昨年より高い状況でした（図1）。

水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の予想産卵最盛期は、これまで気温がやや高く推移してきたため、昨年よりやや早いと予測されます（表4）。コシヒカリなど縞葉枯病に抵抗性を持たない品種を作付けした常発地域では、本病による被害が懸念されるため、適切な防除を行いましょう。

表1 ヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率(%)

地点名		年度	R3 2021	R4 2022	R5 2023
県北部	大田市親園		3.1	3.1	0.0
	大田市蛭畑		1.0	1.0	1.0
	さくら市松山新田		5.2	1.0	1.0
	高根沢町花岡		2.1	2.1	0.0
県中部	真岡市青田		1.0	3.1	5.2
	宇都宮市横山		8.3	5.2	3.1
	宇都宮市雀宮		3.1	3.1	5.2
	上三川町上三川		9.4	11.5	7.3
	鹿沼市酒野谷		1.0	3.1	2.1
県南部	下野市小金井		4.2	1.0	9.4
	小山市小薬		0.0	3.1	2.1
	小山市石ノ上		9.4	1.0	1.0
	壬生町助谷		6.3	2.1	5.2
	栃木市惣社		3.1	2.1	3.1
	栃木市大平町真弓		2.1	5.2	0.0
	栃木市藤岡町富吉		1.0	2.1	3.1
	佐野市堀米		4.2	4.2	2.1
	足利市上洪垂		1.0	0.0	2.1
	県北部平均		2.9	1.8	0.5
県中部平均		4.6	5.2	4.6	
県南部平均		3.5	2.3	3.1	
県平均		3.6	3.0	3.0	



写真1 イネ縞葉枯病の病徴



写真2 ヒメトビウンカ

注：検定サンプルは、令和5(2023)年5月中～下旬に、麦類ほ場から採取したヒメトビウンカ第一世代幼虫
検定方法：DAS-ELISA法
検定数：96頭/地点

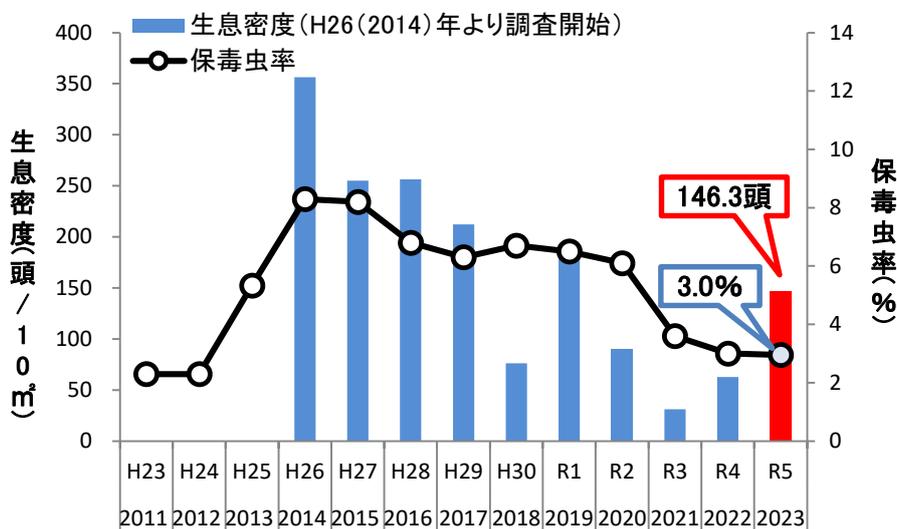


図1 ヒメトビウンカ第一世代幼虫の生息密度及びイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移

防除対策

(1) 移植前の対策：普通植栽培

普通植栽培ではチョウ目害虫の被害も懸念されるため、ウンカ類・チョウ目害虫の両方に登録のある箱施用剤を使用しましょう（表2）。

表2 稲（育苗箱）のウンカ類・チョウ目害虫に登録のある主な薬剤(令和5(2023)年5月31日現在)

農薬名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	成分	農薬の系統	RACコード
●殺虫剤						
リディアNT箱粒剤 〈ウンカ類、ニカメイチュウ、フタヒコヤガ〉	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り 50g	は種時覆土前 ～移植当日 ※ニカメイチュウ、フタヒコヤガは 移植3日前～移植当日	1回	フルピリミン	その他	I:4F
フェルテラゼクサロン箱粒剤 〈ウンカ類、イネツムシ、コブノメイガ、フタヒコヤガ〉 〈※ニカメイチュウ〉		は種時(覆土前) ～移植当日 ※ニカメイチュウは移植3日前 ～移植当日	1回	トリフルメゾピリム クロラントラニリブ ロール	その他 ジアミド	I:4E I:28
ゼクサロンパディード箱粒剤 〈ウンカ類、イネツムシ、コブノメイガ、ニカメイチュウ、フタヒコヤガ〉		は種時(覆土前) ～移植当日	1回	トリフルメゾピリム シアントラニリブ ロール	その他 ジアミド	I:4E I:28
●殺虫殺菌剤						
稲名人箱粒剤 〈ウンカ類、イネツムシ、コブノメイガ、ニカメイチュウ、フタヒコヤガ〉	育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約5L) 1箱当り 50g	は種時(覆土前) ～移植当日	1回	オキサゾスルフィル イソチアニル	スルフィル その他(殺菌)	I:未 F:P03
防人箱粒剤 〈ウンカ類、イネツムシ、コブノメイガ、ニカメイチュウ、フタヒコヤガ〉			1回	トリフルメゾピリム クロラントラニリブ ロール イソチアニル	その他 ジアミド その他(殺菌)	I:4E I:28 F:P03

注1：対象害虫はウンカ類・チョウ目のみ抜粋

注2：薬剤抵抗性の発達を防ぐ観点から、RACコードが同一のものの連用を避ける。

本田防除は、各地域での発生状況に合わせ、表3の薬剤等を参考に防除を行いましょう。効果的な防除タイミングは第一世代成虫の産卵最盛期から7日後までの間とされており、地域ごとの予想産卵最盛期は表4のとおりです。

なお、箱施用剤を使用したほ場で本田防除を行う場合、RACコードの異なる薬剤を使用しましょう。

表3 稲のウンカ類に登録のある主な薬剤(令和5(2023)年5月31日現在)

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期	本剤の使用回数	成分	農薬の系統	RACコード
●粒剤						
スタークル豆つぶ	250～500g/10a	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン	ネオニコチノイド	I:4A
ダントツ粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	クロチアニジン		
●液剤・フロアブル剤						
スタークル液剤10	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン	ネオニコチノイド	I:4A
エクシードフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	スルホキサフロル	スルホキシイミン	I:4C
●油剤						
なげこみトレボン	水溶性容器10個 (500ml)/10a	5葉期以降 収穫21日前まで	3回以内	エトフェンプロックス	ピレスロイド	I:3A

注1：薬剤抵抗性の発達を防ぐ観点から、RACコードが同一のものの連用を避ける。

表4 水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の予想産卵最盛期と防除適期

	宇都宮	小山	大田原
予想産卵最盛期	6/10	6/8	6/19
予想防除適期	6/10～6/17	6/8～6/15	6/19～6/28

※6/1まではアメダス現況値、以降は平年値に+0.3℃で補正(気象庁1か月予報データを活用)

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病虫害情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>)でもご覧になれます。

